

国定公園事業決定調書（蔵王国定公園 蔵王高原集団施設地区公衆浴場事業）

1 国定公園事業の位置及びその周辺地域の現況

項 目	内 容
(1) 位置	<p>蔵王国定公園は、宮城、山形両県に跨り、熊野岳を中心として北は面白山より南は不忘山麓まで、南北3.6km、東西2.0kmで、面積は約4万haである。</p> <p>○公園事業の位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坊平高原 山形県上山市永野外1蔵王山外3国有林241林班ニ小班外
(2) 公園計画の現況	<p>蔵王国定公園の保護規制計画は、お釜を中心とし、地藏岳及び中丸山までが特別保護地区、雁戸山、神室岳などを覆う山脈の稜線を第一種特別地域としている。事業予定地である坊平高原、仙人沢周辺は第二種特別地域である。</p> <p>利用計画：蔵王国定公園蔵王高原集団施設地区 規制計画：第二種特別地域</p>
(3) 自然環境の現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気象 <p>蔵王国定公園を含む奥羽山脈西斜面は、典型的な日本海側気候であり、夏期と冬期の寒暖の差が大きく、冬期には北西季節風を受け積雪量が多い。</p> ・ 地形及び地質 <p>蔵王火山は、安山岩溶岩や火山砕屑流の積み重なった成層火山により、ところどころに急崖を形成するとともに、緩やかな高原地形を呈するところもあり、坊平高原は南北幅約1km、東西延長約2kmの馬の背より一続きをなす台地である。溪谷は両岸に断崖を形成させ、仙人沢は廊下状の溪谷となっている。</p> <p>地質としては、花崗岩類と緑色凝灰岩（グリーンタフ）を基盤とする。</p> ・ 植生 <p>坊平周辺は、ミズナラ二次林、ススキ草原にアカマツを交え、レンゲツツジの群落が見られる。</p> ・ 動物 <p>蔵王連峰に生息するほ乳類としては、ニホンカモシカ、ツキノワグマ、トウホクノウサギ、ホンドテン、ホンドタヌキ等が代表的なものとなっている。</p> <p>仙人沢周辺は、多くの野鳥類が生息しており、ヒヨドリ、カワガラス、キセキレイ、シジュウカラ、カケス、ヤマガラ、ウグイスな</p>

項 目	内 容																		
(4) 土地所有者	どが代表的なものである。 国有林																		
(5) 権利制限等関係	保安林、鳥獣保護区																		
(6) 保護又は利用の実態	事業地の利用は、主に自然探勝やスポーツ利用が中心となっている。																		
・ 利用形態																			
・ 利用上の位置づけ	蔵王高原集団施設地区内には、多目的広場やクロスカントリーコース、野営場、宿舎（ペンション）、トレーニング施設等が整備され、事業計画地は「蔵王坊平アスリートヴィレッジ」として文部科学省指定のナショナルトレーニングセンターの高地トレーニング強化拠点施設に指定されている。近年はプロ・アマ問わずスポーツチームによる夏季の合宿も増加しており、利用者からはスポーツ後のリラックス・コンディショニング用の温浴施設の整備を求める声が多く寄せられている。温浴施設として公衆浴場を整備することにより、スポーツ関係者のみならず、春から秋にかけての登山客や野営場利用者、冬場のスキー客などの国定公園の利用促進につながる。																		
・ 利用者数	<p>○自然公園等利用者数 (単位：千人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年</th> <th>平成24年</th> <th>平成25年</th> <th>平成26年</th> <th>平成27年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蔵王国定公園（山形県）</td> <td>3,851</td> <td>4,428</td> <td>4,566</td> <td>4,447</td> <td>3,461</td> </tr> <tr> <td>蔵王高原集団施設地区</td> <td>229</td> <td>243</td> <td>246</td> <td>265</td> <td>208</td> </tr> </tbody> </table> <p>環境省：「自然公園等利用者数調」</p>		平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	蔵王国定公園（山形県）	3,851	4,428	4,566	4,447	3,461	蔵王高原集団施設地区	229	243	246	265	208
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年														
蔵王国定公園（山形県）	3,851	4,428	4,566	4,447	3,461														
蔵王高原集団施設地区	229	243	246	265	208														

2 整備すべき施設の内容

(1) 整備計画

事業主体	現 行		変 更 後	
	公園施設の種類の種類	規 模	公園施設の種類の種類	規 模
(株)置環	—	—	公衆浴場	0.5 ha

(2) 事業費

国定公園事業者名	平成29年度	平成30年度	平成31年度	総 額
(株)置環	円	削井費 100,000千円	建設費 250,000千円	350,000千円
合 計 金 額	円	100,000千円	250,000千円	350,000千円

3 環境影響予測及び自然環境保全のための対策

項 目	内 容
自然環境に与える影響	<p>整備予定地は元々国民宿舎が整備され宿舎事業が行われていた土地であるが、宿舎施設は既に撤去され、現況は砂利敷きの更地（駐車場）となっており、事業実施が現地の植生等の自然環境に与える影響は少ないと考えられる。</p> <p>また、公衆浴場からの廃水については、周辺施設からの廃水を流している既存の排水路に放流することで、自然環境への影響を最小限に抑えることができる。</p>
自然環境保全のための対策	<p>事業実施にあたっては、保護規制計画の区分に応じ周辺の自然環境への負荷が最小限となるよう配慮するとともに、高原景観の保全を図るため施設の高さや建ぺい率の制限数値を遵守する。</p> <p>公衆浴場からの廃水は自然環境への負荷が最小限となるよう、適切な排水処理を行う。</p>